

宮中晩餐会における

ジョージ・ブッシュ・アメリカ合衆国大統領の乾杯の辞

(一九九二年一月九日、皇居)

天皇、皇后両陛下、ならびに、ご列席の皆さま。

アメリカ国民を代表いたしまして、このように心温まる晩餐会を開いていただきましたことに感謝いたしますとともに、偉大な両国の関係を支援するうえでの皆さまのたゆまざるご努力に、心からお礼を申し上げます。

アメリカと日本は、現在、新たな協力の時代に入ろうとしています。この新時代において、両国は、新しい自由と民主主義の世界を構築しようとしております。私たちの前途に横たわっている仕事は大事業であり、ビジョンと勇気を必要としています。しかし、私たちは、この仕事から手を引くわけにはいきません。あまりにも多くのことが私たちの肩にかかっているのです。

この新世界のリーダーとして、両国は共に、いくつかの課題に直面しております。それは、世界の変革に伴う新しい安全保障上の要件に取り組み、自由と民主主義を促進し、世界の経済成長と繁栄を増進することです。

今夕、私たちは、この新世界秩序の真髄を称えるときに、その構築にあたって真のパートナーとなる機会を祝っているのです。かつて敵国同士だった国が、お互いに助け合い、競争し、成長を遂げ、夢を抱きながら、いかに緊密な同盟国・友好国となることができるかを、私たちは目のあたりにしております。双方とも、両国間の意見の相違を公正かつ建設的に解決しなければならぬことを理解しております。

両国民は共に、仕事、共同体、信念、家族に信をおいています。私たちは、いかに民主主義が諸国間の平和という大義を支えているかを知っており、また、両国間には世界を半周するほどの距離があるにしても、偉大なきずな——経済、軍事面でのきずなや道義的、知的きずな——で、私たちが結ばれていることを理解しております。

天皇陛下、陛下のご即位に伴って選ばれた元号は、「Achieving Peace」（平和の実現）とも訳せるそうですが、これは、陛下が平和の実現という崇高な目的にご自身深くコミットされており、また、過去の悲劇を二度と繰り返さないことを決意しておられることを示しています。私たちは現在、平和の恵みの実現に、今世紀のいかなる時よりも近づいております。

日本の偉大な作家、川端康成氏がノーベル文学賞を受賞された際、その賞状で、川端氏は「東西をつなぐ心の架け橋を築いた」と称えられていました。世界の国々をかつて分断していた壁が崩壊しつつある、この変化の世界において、私たちすべてが新世界秩序への架け橋となり、パートナーとならなければなりません。

この精神のもとで、ご列席の皆さま、杯を挙げて、乾杯いたしましょう。

——天皇、皇后両陛下のご健康を祈って、

——両国を結びつけている友情と共通の目標の架け橋に、

——両国の架け橋を築いた人たち、そして、今でもこの架け橋を渡っている人たちに、

——そして、両国の偉大な国民の繁栄を祈って……